

生徒と向き合うその姿勢に 生徒指導の原点を感じた

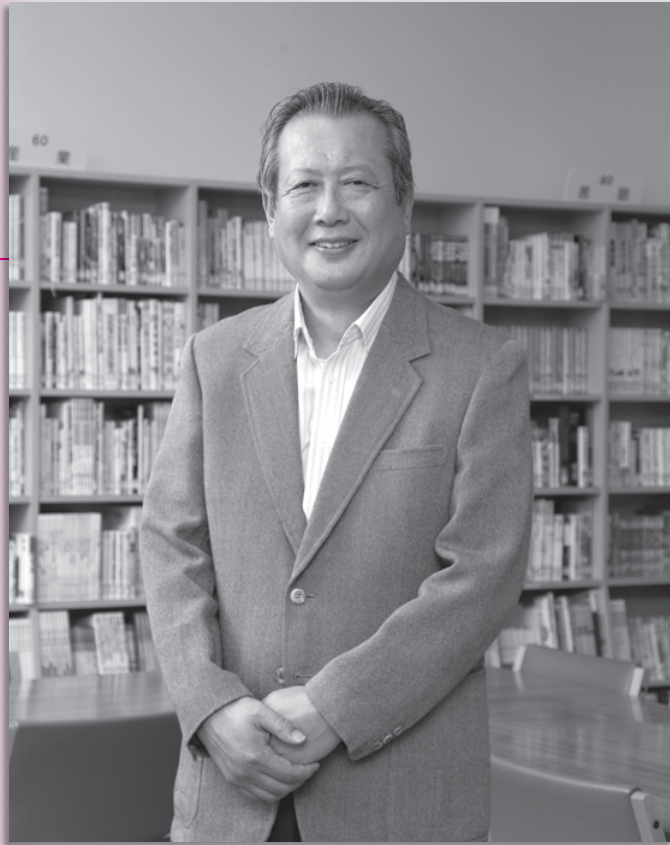
宮城県 仙台市立五橋中学校校長 高橋 泰 TAKAHASHI YASUSHI

教師は日々、さまざまな働き掛けの中で生徒を育てる。そして教師は、共に働く仲間との出会いの中で育っていく。出会いから学んだ教育の原点、そして次代を担う若い世代に伝えたい不易を、高橋校長が語る。

「見付かるまで頑張りましょう」
若手教師の姿に心打たれた

20〜30代に赴任した学校は生徒指導上の課題を抱えていることが多く、大柄で腕力のある私は3年生の担任をよく受け持っていました。まだ若く、経験に乏しかったこともあり、暴力を振るうような生徒に力に対応することもしばしばありました。ある時、素行を注意した男子生徒にネクタイをつかまれました。私は落ち着いた口調で「やるんだったらやってもいいぞ」と言いました。すると、その様子を見ていた生徒たち

が男子生徒を必死に制してくれたのです。友だちの言葉を受け入れ、男子生徒は手を離しました。この一件で、私は生徒としっかり向き合い、力でなく言葉で思いを伝えれば、荒れは収まるはずだと思いました。早速、教職員、生徒・保護者それぞれを対象とした生徒指導通信を発行しました。校内の様子を包み隠さず伝え、生徒と接する時にお願したいことなどをつづっていったのです。生徒指導に懸命に取り組み、その後、教育委員会に異動。教頭として再び現場に戻りました。地域でも有名な荒れた学校でしたが、管理職と



たかはし・やすし 専門教科は国語科。宮城県公立中学校教諭、教頭、校長、仙台市教育委員会（教頭・校長職の前後に指導課指導主事、教育相談課主任指導主事、教職員課課長）を経て、2009年度、仙台市立五橋中学校に赴任。

1975 (昭和50)

新採で名取郡秋保町立（現仙台市立）秋保中学校に赴任

1986 (昭和61)

仙台市立西山中学校の新設と同時に赴任

1992 (平成4)

仙台市教育委員会指導課義務教育班に異動

1997 (平成9)

栗原郡築館町立（現栗原市立）築館中学校に教頭として赴任。菅原先生と出会う。学校だより『大杉』を発行

2002 (平成14)

仙台市立富沢中学校に校長として赴任。学校だより『かしわ』『扉を開く』を発行

2006 (平成18)

仙台市立宮城野中学校に赴任。校長通信『人生意気に感ず』を発行

2009 (平成21)

仙台市立五橋中学校に赴任。校長通信『つぶやき』を発行。仙台駅に近い同校は東日本大震災時に避難所となり、地域住民や帰宅困難者らを受け入れた

なった私は、昔のように生徒と向き合えないこともありました。そうした時、率先して動いてくれたのが当時30代後半の菅原通英先生でした。

菅原先生は、誰よりも生徒思いの先生でした。冬のある日、受験を直前に控えた3年生の生徒が進路のことで保護者とけんかし、家出をしました。警察に届け出て、雪の降る中、学校でも教師総出で探しました。こうした時、夜10〜11時くらいまで探して見付からなければ、あとは警察に任せるのですが、菅原先生はみんなに「頑張りましたよ」と声を掛け、決して諦めようとはしませんでした。その言葉に勇気付けられ、皆で明け方まで探し続けた結果、その生徒を隣町で保護することが出来ました。皆で安堵すると共に「決して生徒を見放さない」という菅原先生の強い意志に心を打たれました。

宴席には必ず出席し、ウーロン茶で談笑していました。人とかかわりが好きなのだと思えます。先生の周りには生徒も教師も自然と集まり、相談もよく受けていたようです。

私も若手時代、生徒指導に懸命に取り組みましたが、どちらかと言えば単独プレーが多かったものです。そうではなく、教師が一丸となって問題に当たること、より強い力が生み出せることを菅原先生から学びました。生徒指導に悩む先生には、「菅原先生を手本にしなさい」とよく言ったものです。

復興のために立ち上がった生徒たちを支えていきたい

私が菅原先生の情熱に動かされたように、物事は、理詰めや利害に関係なく、それに取り組む人の心意気に打たれて動くこともたくさんあります。私は毎朝校門に立ち、登校してくる生徒たちにあいさつをしますが、部活動や委員会単位で、あるいは個人で自主的に参加してくれる生徒たちがいます。教室の中で教えるだけでなく、教師が一生懸命取り組む姿を見せることも大事なことだとつくづく感じるので。

教師が懸命に取り組む姿を見せることも大事な教育



先の東日本大震災で、本校は避難所となりました。仙台駅から近いため、地域住民だけでなく、帰宅困難者や旅行者からも受け入れられました。保健室では、近隣の病院からあふれてきた軽傷患者の治療に当たりました。教師たちは力を合わせ、その全ての対応に当たり、約20日間、避難所としての役割を果たしました。

そして今、生徒たちは「市内の中心地にある本校から明るさを取り戻そう」をスローガンに震災復興プロ

ジェクトに取り組んでいます。合唱大会では3年生のクラスが「親知らず子知らず」を自由曲に選び、追悼と復興の祈りを込めて歌い上げました。9月の文化祭では、3年生だけでも100人余りが実行委員に立候補し、数々の催しを成功させました。その心意気に、私たち教師の方が頭が下がる思いです。生徒を頼もしく思うと同時に、彼らが生き生きと活躍できるよう、我々教師は一丸となって支えていきたいと思えます。